

●書学書道史学会

会 報

第 2 号

平成13年(2001)10月1日発行

編集・発行
書学書道史学会
事務局東京都渋谷区桜丘町29-35
〒150-0031 美術新聞社内
TEL(03) 3462-5251(代)
FAX(03) 5489-7288(直)

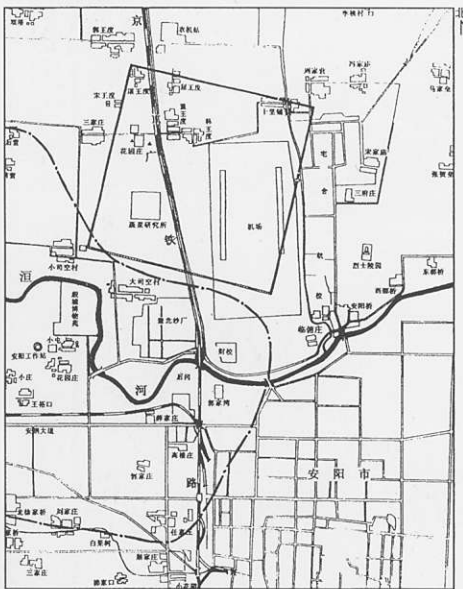
視 点

最古の漢字発見への期待

松丸 道雄

ここ何年かの間の中國古代に關する大発見のひとつは、何といつても河南省安陽小屯のいわゆる殷墟の洹河をはさんだ北側に、巨大な殷代城壁の存在することが、確認されたことであろう。これは、昨年(二〇〇〇年)一月八日の光明日報で初めて公けにされ、直後に中國社會科學院のホームページ上の「學術動態」欄に登載され、一部の専門家の間では大きな話題になったものの、なぜか日本では、殆ど何も報導されなかったようなので、いささか日も経ったことだが、ここに紹介しておこうと思う。現時点で最も詳しいのは『中國文物報』二〇〇〇・二・二〇の記事である。

この地は、いわゆる「殷墟保護範圍」の外側であったが、近年、米國ミネソタ大學との合同調査の結果、殷墟期(殷代後期)以前の様式の、ほぼ殷代中期といつてよい土器類が異常に濃密に存在することが明らかに、遽かに注目されるに至った。そこで鉛探を繰り返し、遂に巨大城壁が地中深く埋没していることが突き止め



洹北商城遺址平面図

られたのだった。

東西南北二一五〇〜二二三〇米、城内面積四〇〇万平方米以上、というのは、これまで発見された春秋以前の中國の城壁中で最大である。著名な殷代初期の鄭州商城(ながらく殷中期と考えられてきたが、初期とする考え方が有力になってきた)より、一、二割かた大きい。洹北商城と名づけられた。

まだ極く一部しか發掘されていないが、遺構・遺物は豊富である。遺跡の一部は軍用飛行場が占めているが、それ以外は殆ど農地である。城壁そのものが現地表から二・五メートル以下にある、というので厖大な土砂を除かねばならないが、大部分が市街地の鄭州と異なり、發掘不能ということはない。何十年を要するかわからないが、全面發掘が期待される。

そうして、なかでも最も期待されるのが、現在、洹河南岸のいわゆる殷墟から出土する武丁期以降の甲骨文字に先行する文字の發掘に他ならない。これまで、殷墟以外で、何百もの殷代遺址が發掘されてきたが、文字が發見されることは殆ど無かった。それも道理で、殷代では文字は極く一部の支配者層の獨占物だったのであり、彼らは王城内にしか住んでいなかった。つまり、文字は、王城外からは發見されるはずもなく、逆に王城内からは、必ずや出てくるに相違ない。洹北商城は、私は、第十二代河亶甲の遷った都、と推測している(私見は『殷周秦漢時代史の基本問題』汲古書院、二〇〇一年六月、所収の小文を参照されたい)。現存甲骨文字に百年〜二百年先行する文字の大量發見を、存命中にこの眼で見たいものだと思念している。

本年度の第12回書学書道史学会大会について詳細をお知らせします。大会は、11月9日(金)から11日(日)までの3日間にわたり、さいたま市の埼玉大学キャンパスほかで行います。奮ってご参加下さい。日程並びに発表者等、要項は以下の通りです。ご参加の申し込み等は、同封の参加申込ハガキで10月末日までにお願いします。なお、諸般の事情で各発表のレジメを本号に添付できませんでした。大会参加申込ハガキに「レジメ送付希望」とした方には、別途郵送でお届けします。ご了承下さい。

〈日 程〉

【11月9日(金)】

16:30～ 理事会(於浦和東武ホテル/TEL048-825-4700)

【11月10日(土)】

9:00～ 受付(於C棟会場入口)

9:30～10:30 総会

10:40～12:00 <中国部会/研究発表> C棟会場

①「梁啓超碑帖跋—中国国家図書館収蔵本について」高澤浩一(県立市原八幡高校)

②「郭店楚簡「唐虞之道」「忠信之道」の文字学的検討」福田哲之(島根大学)

10:40～12:00 <日本部会/研究発表> A棟会場

③「書写の継承」家入博徳(会員)

④「江戸時代の出版と書の手本」岩坪充雄(会員)

12:00～13:00 昼食休憩

13:00～15:00 <日本部会/研究発表> A棟会場

⑤「米山の書についての一考察—その臨書と制作」鄭麗芸(相山女学園大学)

⑥「古筆端切」形成の一要因」高城弘一(國学院大学)

⑦「色紙の体裁の変化についての一考察」杉浦妙子(二松学舎大学)

15:00～15:20 休憩

15:20～16:40 <全体会/研究発表> C棟会場

⑧「何紹基の篆隸観—甲骨発見以前の金石学」大野修作(京都女子大学)

⑨「熊野類懷紙筆跡の再検討—原本か摸本かの鑑識の方法」古谷稔(大東文化大学)

16:40～17:20 <全体会/特別報告> C棟会場

⑩「走馬楼簡牘研究の現状」田中 有(大東文化大学)

17:30 閉会

18:00～20:00 懇親会(大学会館2階・きやら亭にて)

【11月11日(日)】

特別鑑賞行事(現地集合・現地解散)

10:00～ 「日下部鳴鶴自用印展」鑑賞(於篆刻美術館・茨城県古河市/TEL0280-22-5215)

11:00～11:40 特別講演(杉村邦彦副理事長による)於館内

12:00～13:00 昼食(注文弁当用意)

13:00～15:00 特別陳列鑑賞会(古書画及び明拓本)*会員及び同伴者のみ入場可

本会会員・中濱碩堂氏(淑徳大学教授)による解説あり(13:30～14:00)

埼玉大学交通略図



【各種ご連絡事項】

- 11日(日)の特別鑑賞行事の会場案内図については、10日の大会受付時に配布します。
- 大会参加費（資料代を含む）は、会員（同伴を含む）3,000円、学生（院生）会員、および会員同伴の学生（院生・学部生）2,000円です。
- 懇親会会費は、5,000円です。
- 特別鑑賞行事（11日）の参加費（入館料・資料代を含む）は、1,000円です。
- 大会参加費、懇親会費等は、事前に同封の振替用紙（明細ご記入下さい）でご送金下さい（ご送金は11月7日までに必着のこと）。
- 大会当日の昼食は、大学会館2階・きやら亭をご利用下さい。
- 大会では、受付時に発表者の発表資料（期限までに事務局に原稿提出のあったもの）を一括して資料袋に入れ配布する予定です。
- 会場の埼玉大学（埼玉県さいたま市下大久保255）への交通は、J R 京浜東北線北浦和駅からバスで20分、埼京線南与野駅からはバスで15分です。
- ご参加各位の宿泊については、東京からも至近距離であり、各自でお手配下さい。
- 大会当日の緊急連絡は、萱原晋・事務局長の携帯（090-3084-8561）へお願いします。

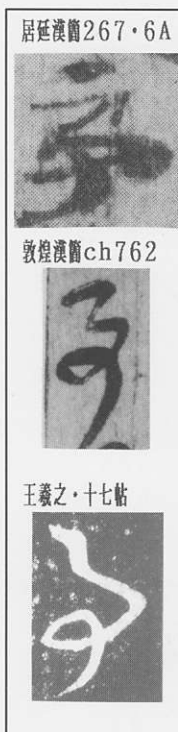
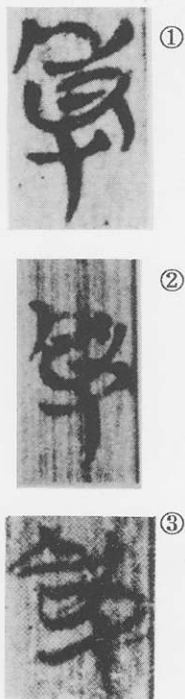
(国内局・埼玉大会運営委員会)

Today's
Feature

〈包山楚簡〉に見える「事」の字形

新井 光風

近年、戦国時代の竹簡が大量に出土したことによって、新たな事実がわかり、せんごくという時代の書法的認識、書道史的概念が、今、変りつつある。この時期には、早くも忽率の早書きの文字が発生し、字画の簡略化現象と共に草書的な姿態の文字が出現していることである。また今に伝わる草書字形の原形になったと思われる文字も目検できる。戦国時代における文字変遷の課程は想像以上に複雑だ。これに関しては拙論でいくつか述べてきたが、手もとの研究メモ「文字カード」から気になっている字を引き出してみた。



「事」字について記す。後の小篆では「𠂔」形に作り、中央の縦画は上から下まで貫通する。ところがそれより前の大篆〈石鼓文〉では「𠂔」に作り、古く金文の字形も僅かの例外を除いて大半は縦画を下に通さず、「𠂔」に作る。

ところで戦国の日常の筆写体に見る「事」字は、〈曾侯乙墓竹簡〉中に五字、〈郭店楚簡〉に四十二字、〈包山楚簡〉に二十一字、他に数文字、縦画を通さない点では共通するが、いずれも文字中央が「𠂔」形、または、「𠂔」形に書かれているところに違いがあり、円転の縦画状の線が下部のみ現われることである。図①の字形が最多だが、②では中央の「𠂔」形の右側終筆が下部の「𠂔」形と接触してつながる。興味深いことは図③の形、その接触部分が右回転の一筆書き状態で書かれ、後の草書字形の筆順を想起せしめるような動きになっている点である。ちなみに後の典型的な草書の字形は図の如くである。このような縦画部分が極端に短かく下部に位置する草書字形が、何を母体にして出来たのか。いずれにしても今日に伝わるこうした「事」字の草書字形が、隸書字形を母体にして直接的に生まれたとは考えにくい。中央縦画の変化と異同に無理があるからである。「事」字の草書字形については、恐らく〈包山楚簡〉に出現したような肉筆の篆書の早書きに端を発し、後に通行の隸書の早書きの形と係わりながら、複合的な変化の中で結果的に今日に伝わるような形に至ったのではないかと思う。

参考記せば、〈包山楚簡〉の文字は、文字左側の縦画状の線を省画したり、筆路を露出して線をつなげたり、右回転が旺盛で早書きの傾向がある。

草塩藻学書

鐵齋の書翰解説

野中 浩俊

鐵齋を語る時、しばしば話題に上るのが「書翰の美しさ」である。鐵齋の書翰は、年齢を重ねるに従い行間が狭くなり、動きは八方へ展開、

網目状の均衡を保って変化

の妙を極めている。意志の

伝達という書翰本来の使命

を超えて雅豊かな一幅の画

を成し、観る者を酔わせる

のであろう。

彼は余程筆まめであった

と見え、書画の揮毫や学

問・旅・趣味などに関する

書翰が現在なお全国の愛好

家の許に遺されており、そ

れが時には数十通に及ぶ場

合も少なくない。しかし、

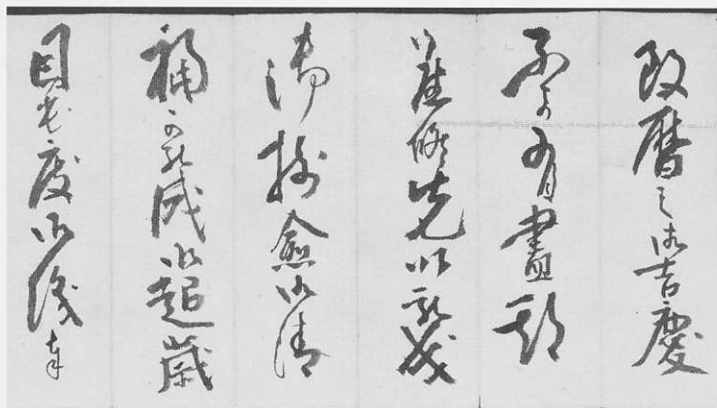
生涯儒者を以て任じ、博識

で知られる彼の文章はすこぶる難解であり、その上、奔放な書き振りは難読という点においても定評がある。これまでに公刊された資料としては、伊藤敏子女史の手になる「近藤家宛書翰」九十五通の精緻な調査（『大和文華館所蔵富岡鉄斎作品目録』）や、豪華な図版の『鐵齋尺牘』（求龍堂）を筆頭に、『鐵齋先生書翰集』（清荒神清澄寺）、「園田湖城宛書翰」（『修美』四八号）、「十三通の書翰」（『出光美術館紀要』四号）、「佐藤徳善上人宛書翰」（『竜池山大雲院』）等々、解説されたものもあるといえ、遺存する膨大な量の鐵齋の書翰の中ではこれらは九牛の一毛に過ぎず、ほとんど手つかずの状態といわざるを得ない。

書画作品の研究と併せて、今後はこれら遺された書翰を解説・調査することが鐵齋芸術解明の必須の課題となるに違いない。

ところで、図版の「鐵齋翁尺牘帖」は、明治三二年、鐵齋六四歳の時、京都四条円山派の画家中嶋華鳳（憲章）に書き与えた尺牘文例集である。この折手本については明治四三年四月一日付の京都『日出新聞』に「門人中嶋華鳳の為に書して与えた落款様式、図題の解説、俗牘の手本等を見ては云々」（傍点筆者）と、わずか数行見えるだけで、長い間その存在が忘れられていたが、昨年漸く『書叢』第十四号（新潟大学書道研究会）に全容と訓読みを附して紹介したところである。

『破格の書』と総称される鐵齋の書の中で、この「鐵齋翁尺牘帖」は、その二年後に書かれた「落款手本」とともに最も規範性に富む作品として注目される。鐵齋の書翰研究・書美の解明に当り、一つの基準ともなる資料であらう。



「学芸誌」第1号・第10号収載論文等 分野・内容別分類目録

《論文等》(A)論文・B研究ノート・C特別寄稿

《総記》

- ▽書道史研究の方法に関する一つの試論【杉村邦彦】……………第1号A
 - ▽禪と書法芸術【何 勁松】……………第1号A
 - ▽中国古書論にみられる用筆理念の変遷—蔵鋒用筆を中心として—【森 常雄】……………第1号A
 - ▽形態から行為へ—今日の書における芸術経験をめぐる—【萱のり子】……………第4号A
 - ▽線・形象・時間【萱のり子】……………第6号B
 - ▽書法批評語【骨義考—南朝から唐代の書品論を中心に—】
【河内利治】……………第7号A
 - ▽書法審美範疇語【適媚】考【河内利治】……………第10号A
 - ▽隷書、佐書、書佐【顧 風】……………第10号A
- 《中国》
- ▽泰山金剛經と尖山摩崖—「北周要經洞摩崖」(民国十四年刊印本)をめぐる—【松村一徳】……………第1号A
 - ▽《検》の再検討【大庭 脩】……………第1号A
 - ▽顔真卿書「殷夫人顔君碑」について—顔真卿の晩年の書風に関する一考察—【宮崎洋二】……………第1号A
 - ▽伝殷墟出土墨印の亞字形について【金 洋東】……………第2号A
 - ▽甘肅簡牘片書出土年表【田中 有】……………第2号A
 - ▽《肥致碑》試探【西林昭一】……………第3号A
 - ▽劉塘の書跋に見る書法観【鈴木洋保】……………第3号A
 - ▽明代における狂草の流行とその様相—祝允明を中心として—【下野健児】……………第3号A
 - ▽包山楚簡の書法についての考察【新井儀平】……………第4号A
 - ▽中唐期の書論—「書斷」から「述書賦」へ—【大野 修作】……………第4号A
 - ▽中央研究院所蔵の拓本資料—仏教碑銘を中心として—【八木宣諦】……………第4号A
 - ▽河北定県北莊漢墓刻石の書丹者【飯山三九郎】……………第4号A
 - ▽武威磨嘴子第四号漢墓出土の柶銘について【中村伸夫】……………第5号A
 - ▽祝允明の小楷書法について【下野健児】……………第5号A
 - ▽趙孟頫本「急就篇」考【福田哲之】……………第5号A
 - ▽漢墓出土の簡牘—特に王杖簡牘について—【大庭 脩】……………第6号A
 - ▽鳥篆考【鶴田一雄】……………第6号A
 - ▽李瑞清の墨縁【菅野智明】……………第6号A
 - ▽潤例の発生と展開—明・清における文人売芸家の自立—【澤田雅弘】……………第7号A

- ▽「玉梅花盞論篆」における金文書派の大系【菅野智明】……………第7号A
- ▽吐魯番出土文書に見られる王羲之習書—阿斯塔那・七九号墓文書【ZTAMF918】を中心に—【福田哲之】……………第8号A
- ▽新発見の洛陽存古閣旧蔵石拓本【飯山三九郎】……………第8号A
- ▽戦国簡楚系簡帛文字の変遷—字形を中心として—【横田恭三】……………第8号A
- ▽中国新出土秦封泥の検証【松村一徳】……………第8号B
- ▽楊守敬「敬素齋清閣評碑記」—「同・評帖記」について—湖北省博物館蔵手稿本の検討を中心に—【中村史朗】……………第9号A
- ▽小萬柳堂と澄清堂法帖【鈴木洋保】……………第9号A
- ▽鄭文焯用印再考【弓野隆之】……………第9号B
- ▽金文「唯」字考【金 洋東】……………第9号C
- ▽殷代の学書について—甲骨文字における「習刻」と「法刻」—【松九道雄】……………第10号A
- 《日本》
- ▽日本出土「魏紀年」四鏡の銘文と字体【福宿孝夫】……………第1号A
- ▽「篆隸萬象名義」の篆体について—「説文解字」との比較を中心に—【福田哲之】……………第1号A
- ▽手本体と写書体の形状的特質とその作品名称について【木下政雄】……………第1号A
- ▽「才葉抄」と藤原教長【杉浦妙子】……………第2号A
- ▽額田部臣刀銘の考証—字体・製作年・書者—【福宿孝夫】……………第2号A
- ▽琉球王朝の和様書について【渡久地政二】……………第2号B
- ▽會津八一の印字【神野雄二】……………第3号A
- ▽鶴斎以降の書流の行方【岩坪充雄】……………第3号B
- ▽和刻「隸辨」考—江戸時代における隸書の導入—【田中 有】……………第4号A
- ▽尾上柴舟の書風の変化に関する一考察【松本昭彦】……………第4号A
- ▽「秋萩帖」所収歌について【高城弘一】……………第5号A
- ▽内藤湖南と山本二峯—澄懷堂収蔵の中国書画をめぐる—【杉村邦彦】……………第6号A
- ▽滑川澹如について【柴田光彦】……………第6号A
- ▽書跡における平面鑑賞と堅面鑑賞について—その形状より見た特徴—【木下政雄】……………第7号A
- ▽小曽根乾堂論—篆刻を中心として—【神野雄二】……………第7号A
- ▽忘れられた碑の中から—戸川安清寿蔵碑をめぐる—【柴田光彦】……………第8号B
- ▽仮名発達史における難波津の歌【森岡 隆】……………第9号A
- ▽金印再考【佐藤法雄】……………第9号A
- ▽新出の「庭訓往来」—古写本の筆者について—建部伝内賢文自筆と認定するまで—【中村武三】……………第9号B
- ▽王羲之の書法を中心とする江戸和様書家の唐様書受容について【鈴木晴彦】……………第10号A

- ▽正倉院所蔵案数論について【湯沢 聡】……………第10号B
- 《朝鮮》
- ▽朝鮮書道史と副島種臣—金正喜との関連をめぐる—【豊嶋嘉穂】……………第2号A
- 《伝播・交流》
- ▽水野疎梅とその交流【横田恭三】……………第2号A
- ▽潘存臨鄭文公下碑の伝来とその歴史的意義【杉村邦彦】……………第3号A
- ▽楊守敬と日下部鶴鳴—近代中日書法交流史の発端—【杉村邦彦】……………第4号A
- ▽廉泉の日本における活動—収蔵家としての行跡をめぐる—【鈴木洋保】……………第6号A
- ▽江戸時代に舶来された単帖の研究【大庭 脩】……………第8号A
- ▽楊守敬の来日とその影響に関する幾つかの問題【杉村邦彦】……………第10号A
- 《報告》
- ▽中日書法史論研討会の記【中村伸夫】……………第4号
- ▽95日華書学研討会の記【事務局】……………第6号
- ▽第二回中国書法史論國際研討会の記【中村伸夫】……………第7号
- 《抄録》
- ▽王羲之の「集成帖」について【西林昭一】……………第6号
- ▽近・現代の日本の書について【萱原 晋】……………第6号
- 《資料》
- ▽Handwriting研究関連文献総目録(1)【萱原 晋】……………第5号
- ▽Handwriting研究関連文献総目録(2)【萱原 晋】……………第6号
- ▽Handwriting研究関連文献総目録(3)【萱原 晋】……………第7号
- 《書評・近刊紹介》
- ▽松九道雄・高嶋謙一編「甲骨文字字釋綜覧」【浦野俊則】……………第6号
- ▽池田 温編「中国古代写本識語取録」【田中 有】……………第7号
- ▽西林昭一著「翁方綱の書学」——「蘇齋筆記」訳註——【田中 有】……………第7号
- ▽大庭 脩著「象と法」と「田中 有」……………第7号
- ▽啓功著・大野修作訳「啓功書話——詩でたどる書の流れ——」【田中 有】……………第7号
- ▽村上翠亭・高城竹苞著「近衛家熙写手鑑の研究—仮名古筆篇—」【森岡 隆】……………第8号
- 《誌上座談会》
- ▽「書学書道史研究の現状と展望」【出席者—西林昭一、杉村邦彦、角井博、興膳宏、松九道雄、大野修作、浦野俊則、中村伸夫、大島守彦、福田哲之、野中浩俊、萱原晋、田中有】……………第5号

執筆—one覧

【中国書道史関係】

- ◇松丸道雄 (副理事長・東京大学名誉教授)
- ◇浦野俊則 (理事・千葉大学教授)
- ◇新井儀平 (理事・大東文化大学教授)
- ◇福田哲之 (会員・島根大学助教授)
- ◇横田恭三 (理事・跡見学園女子大学専任講師)
- ◇中村伸夫 (常任理事・筑波大学助教授)
- ◇田中 有 (常任理事・大東文化大学助教授)
- ◇菅野智明 (会員・福島大学助教授)
- ◇富田 淳 (幹事・東京国立博物館東洋課)
- ◇西林昭一 (常任理事・淑徳大学大学院教授)
- ◇池田利広 (会員・大阪教育大学専任講師)
- ◇玉村清司 (会員・大東文化大学教授)
- ◇大橋修一 (常任理事・埼玉大学教授)
- ◇河内利治 (理事・大東文化大学助教授)
- ◇下野健児 (幹事・花園大学助教授)
- ◇鶴田一雄 (会員・新潟大学助教授)
- ◇石田 肇 (理事・群馬大学教授)
- ◇澤田雅弘 (常任理事・群馬大学教授)
- ◇鈴木洋保 (会員・京都女子大学講師)
- ◇弓野隆之 (会員・澄懷堂美術館学芸部)
- ◇杉村邦彦 (副理事長・京都教育大学教授)
- ◇高澤浩一 (会員・市原八幡高教諭)

【日本書道史関係】

- ◇森岡 隆 (会員・筑波大学助教授)
- ◇藤木正次 (常任理事・日本大学教授)
- ◇神野雄二 (会員・広島文教女子大学助教授)
- ◇古谷 稔 (理事・大東文化大学教授)
- ◇高木厚人 (会員・大東文化大学助教授)
- ◇高城弘一 (幹事・国学院大学助教授)
- ◇杉浦妙子 (理事・二松学舎大学講師)
- ◇大野修作 (常任理事・京都女子大学教授)
- ◇大橋修一 (前出)
- ◇笠嶋忠幸 (会員・出光美術館学芸部)
- ◇名児耶明 (会員・五島美術館学芸課長)
- ◇柴田光彦 (監事・前跡見学園女子大学教授)
- ◇鈴木晴彦 (理事・昭和学院短大教授)
- ◇野中浩俊 (理事・新潟大学教授)
- ◇久米 公 (監事・四国大学教授)
- ◇金子卓義 (会員・駒沢大学講師)
- ◇杉村邦彦 (前出)

【朝鮮書道史関係】

- ◇萱原 晋 (常任理事・カリタス女子短大講師)
- (執筆事項順)

新編『日本・中国・朝鮮／書道史(知)年表事典』

(仮称) 刊行のお知らせ

本学会編の『日本・中国・朝鮮／書道史(知)年表事典』の編集作業が急ピッチで進んでいます。これは一昨年に既刊の『書道史年表』の姉妹編として企画されたもので、この編纂事業は今年四月に正式に理事会決定され、直ちに編集局と学術局合同の編集委員会が設置されてスタートしたものです。全役員を中心に、会内の各分野の専門家三八氏(別途参照)が分担執筆している、文字どおり学会の総力を結集し全く新しい構想で編まれた事典となります。

刊行計画では当初、十一月十日の埼玉大学での本年度総会で披露され、同日発売の予定でしたが、編集委員会による作業は若干後れ気味で、完成は十二月の見通しです。また、本書の版元は理事会決定により『年表』と同じく、株萱原書房に決まりました。これは、昨年の「第四回国際書学研究大会」開催に当たり、学会が同社より多大な財政支援を受けたことを背景に決定されたものです。

現在の計画では、新事典の体裁は携

帯性を考慮した新書判で、総四八八ページとなり、既刊の『書道史年表』の年表データを、スペースの許す範囲で増補改訂のうえ収録し、年表記載の重要事項をピックアップして解説と図版を付した「事典」となります。口絵に最新のカラー図版も入ります。

総項目数は、ページ数の制約から厳選を重ねた約四五〇項目ですが、主要項目にはコラム形式を採用、また図版も随所に資料の最近撮影の写真も盛り込むなど、充実した内容を誇ります。

定価は最終的には未定ですが、最大の普及をめざす狙いから一五〇〇円前後となる予定です。

【事典編集委員会委員名簿】

▽大野修作(学術局長)、大橋修一(編集局長)、萱原晋(事務局長)、河内利治(理事)、澤田雅弘(理事)、下野健児(幹事)、杉浦妙子(理事)、鈴木晴彦(理事)、鈴木洋保(会員)、高城弘一(幹事)、古谷稔(理事)、横田恭三(理事)

≪ 50音順 ≫

学会だより (13・5・13・9)

◆会議・会合メモ

- 13・5・21 事務局・会報編集委員会
(於本部事務局)
13・6・11 事務局・会報編集委員会
(於本部事務局)
13・6・24 編集局・学会誌編集委員会
(於本部事務局)
13・7・22 編集局・学会誌編集委員会
(於本部事務局)
13・8・2 事務局・会報編集委員会
(於本部事務局)
13・8・20 編集局・学会誌編集委員会
(於本部事務局)
13・9・8 事務局・会報編集委員会
(於本部事務局)

◆会員動静

- (於本部事務局)
13・9・8 編集局・学会誌編集委員会
(於本部事務局)
13・9・8 事務局・会報編集委員会
(於本部事務局)
13・9・11 事務局・会報編集委員会
(於本部事務局)
13・9・22 事務局・会報編集委員会
(於本部事務局)
13・9・24 事務局・会報編集委員会
(於本部事務局)
13・9・30 事務局・会報編集委員会
(於本部事務局)
○田中有常任理事「大修館書店より『書道故事成語辞典』を上梓」
○石川巖(元理事)「名古屋大学出版会より『日本書史』を上梓」
○玉村清司(元理事)「大東文化大学教授新任」

13年度後期予定表

10月上旬	会報第2号発行
11月9日	第29回定例理事会
11月10日	第12回大会(於埼玉大学)
12月9日	選挙管理委員会会議
12月15日	第Ⅶ期役員改選選挙告示
12月末日	学会誌第12号原稿投稿申込締切
1月15日	役員改選立候補(推薦含む)締切
2月15日	役員改選選挙投票開始
3月15日	役員改選選挙投票締切
3月16日	役員改選選挙開票
3月31日	第30回臨時理事会・第Ⅶ期役員会発足
3月31日	学会誌第12号投稿原稿受付締切

◆役員改選について

上掲の「13年度後期予定表」にもあります通り、間もなく役員改選の手続きが始まります。昨年度の国際大会開催の影響から、現役員会発足は昨年十二月でしたが、任期は会則に従い来年(平成14年)三月末日までとなっております。改選手続きが規定通り行われます。ご協力をお願いします。

なお、次の役員改選選挙を所管する選挙管理委員会の委員の方々は、次の通りです。(○印＝委員長)

▽役員委員 ○柴田光彦、萱原晋、河内利治、野中浩

俊▽会員委員 柿木原くみ、富田淳
◆住所不明者について

学会では、次の会員の方々の住所が不明となっております。郵便物が宛先不明で戻ってきております。消息をご存じの方は事務局まで一報下さい。
▽石井仁之、王捷、小浦直人、川津一成、関尾史郎、服部一啓、松井嘉徳、松宮貴之、南沢雅光、湯浅知文、劉漢人

◆地方講演会について

学会では、斯学振興のため、全国各地の大学や研究機関、また書道団体等と共催するなどの形で、学会の役員・会員を講師とする書道史関連のテーマによる「地方講演会」を積極的に開催したいと考えています。会員各位のご勤務先、ご関係先等で開催が可能でしたら、ぜひご協力下さい。事務局に企画段階からご相談頂けると、学会の事業計画に組み込んで準備を進めることができ、成果も大きいと思われれます。

◆14年度大会開催地について

今秋の埼玉大学での「第十二回書道史学会大会」に続く、平成14年度の「第十三回大会」は京都市伏見区の京都教育大学で開催することが固まっています。今秋の大会の総会で、詳しい開催要項が発表されます。出来るだけ、たくさんの方々に発表のご準備をお願いしたいと思ひます。

◆会費納入のお願い

本号に添付した振替用紙は、大会参加費等をご送金頂くためのものです。が、年会費未納の方は会費送金用としてもご利用下さい。会費は、年額六〇〇円(院生の方は三〇〇円)です。

ぜひ完納をお願いします。

また今年から、理事会決定により、会費を三年以上滞納の方には学会誌の送付を保留する措置がとられます。また長期滞納の方には紹介会員・推薦役員と事務局が連携して個別に事情調査等を行います。ご協力をお願いします。

◆新会員紹介のお願い

ご周囲、ご関係方面に書学・書道史に限らず考古、歴史、文学、言語、美学、哲学、創作に至る、幅広い関連諸分野で会員としてふさわしい方がおられましたらご紹介下さい。新会員の入会手続きとしては、役員(理事・監事)推薦と理事会承認を要する規定となっております。理事会開催のタイミングに合わせてご紹介頂くと、スムーズに運ぶことができます。(事務局)

編集後記

◆会報の第二号をお届けする運びとなった。ご寄稿賜った各位には、衷心より感謝申し上げたい。大会の最終連絡が本号の主たる使命で、プログラム等の最終決定を待っての編集となった関係から、発行が若干遅れる結果となった。ご寛恕のほど。◆「学会だより」の「会議・会合メモ」をご覧の通り、委員諸氏は毎週のように集まって仕事をしています。学会は、そして斯学は、こうして黙々と汗をかくて下さる方々によって支えられているとつくづく思う。◆まだ正式な連絡はないが、「第五回」の「国際大会」が来年八月下旬に、中国の南京で開催される動きとなっているようだ。十一月の大会までに確認して、ご報告したい。

(萱原晋記)